

日本の宗教教育論、宗教教育の歴史の見直しに貢献。

# 日本の宗教教育論

## 第二回全7巻

島蘭進、高橋原、星野靖二

編・解説・解題



クレス出版

## 日本の宗教教育論 第二回全7巻

島蘭進・高橋原・星野靖二 編・解説・解題

A5判/上製函入/クロス装 平成22年7月末日刊行

揃定価72,000円(税別) ISBN978-4-87733-540-3(セット) C3314

第8巻	宗教生活叢書 8-10	定価10,000円	ISBN978-4-87733-541-0
第9巻	宗教生活叢書 11-13	定価12,000円	ISBN978-4-87733-542-7
第10巻	宗教生活叢書 14-16	定価11,000円	ISBN978-4-87733-543-4
第11巻	宗教生活叢書 17-19	定価11,000円	ISBN978-4-87733-544-1
第12巻	宗教生活叢書 20、 仏教大学講座、宗教々育講座	定価 9,000円	ISBN978-4-87733-545-8
第13巻	基督教宗教々育講座	定価10,000円	ISBN978-4-87733-546-5
第14巻	宗教教育の諸相、創造的宗教教育	定価 9,000円	ISBN978-4-87733-547-2

## 日本の宗教教育論 全7巻

島蘭進、高橋原、星野靖二 編・解説・解題

第1巻	教育宗教 衝突断案、我が国民道徳と宗教との関係、 宗教と教育に関する学説及実際	定価13,500円(税別) 501-4
第2巻	宗教教育原論	定価16,500円(税別) 502-1
第3巻	信仰を基とする 道徳的陶冶の研究、 児童宗教教育の基礎	定価15,000円(税別) 503-8
第4巻	児童宗教々育の理論と実際、児童 宗教教育	定価14,500円(税別) 504-5
第5巻	宗教教育の原理及実際、宗教教育の本質、 宗教教育の理論と実際	定価15,000円(税別) 505-2
第6巻	宗教教育概論	定価 9,500円(税別) 506-9
第7巻	宗教々育の根本問題、教育者の為の 宗教読本	定価11,000円(税別) 507-6

揃定価95,000円(税別) ISBN978-4-87733-500-7(セット)

## 宗教学の形成過程 全9巻

シリーズ日本の宗教学④

第1巻	宗教進化論	定価11,000円(税別) ISBN4-87733-338-X
第2巻	弥兒氏宗教三論、宗教進化論	定価12,500円(税別) ISBN4-87733-339-8
第3巻	諸教便覧、神道新論、仏道新論 ほか	定価 8,500円(税別) ISBN4-87733-340-1
第4巻	世界三聖論、科学的宗教 ほか	定価 9,500円(税別) ISBN4-87733-341-X
第5巻	宗教研究、比較宗教一斑、宗教の比較的研究	定価11,000円(税別) ISBN4-87733-342-8
第6巻	倫理宗教時論、現今将来 倫理及宗教	定価10,000円(税別) ISBN4-87733-343-6
第7巻	宗教哲学 ほか	定価13,000円(税別) ISBN4-87733-344-4
第8巻	信仰問題 ほか	定価 8,500円(税別) ISBN4-87733-345-2
第9巻	吾人の宗教 ほか、解説	定価11,000円(税別) ISBN4-87733-346-0

揃定価95,000円(税別) ISBN4-87733-337-1(セット)


## 宗教学の諸分野の形成 全9巻

シリーズ日本の宗教学⑤

第1巻	宗教心理の研究、増補 宗教と哲学	定価11,000円(税別) 391-1
第2巻	宗教哲学概論	定価19,000円(税別) 392-8
第3巻	宗教学概論	定価 9,000円(税別) 393-5
第4巻	宗教民族学	定価 9,500円(税別) 394-2
第5巻	軌近宗教学説の研究	定価12,000円(税別) 395-9
第6巻	御大典記念 日本宗教大会紀要	定価11,000円(税別) 396-6
第7巻	反宗教闘争の旗の下に、宗教学説	定価13,000円(税別) 397-3
第8巻	マルキシズムと宗教、宗教至上、転換期の宗教	定価16,000円(税別) 398-0
第9巻	教派神道の発生過程、教派神道の研究、解説	定価14,500円(税別) 399-7

揃定価115,000円(税別) ISBN978-4-87733-390-4(セット)

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町14-5 メローナ日本橋  
☎03-3808-1821 03-3808-1822 <http://www.kress-jp.com/>

 株式会社クレス出版

●書店名

日本国憲法は信教の自由を守るべきことを述べているが、宗教教育がどのようになされるべきかについてはさまざまな解釈が可能だ。では、大日本帝国憲法下の戦前はどうかだったか。教育勅語の發布以後、国体にそうとう公的な意義をもつ教育と特定宗教の布教につながる宗教教育は両立しないという考え方が有力となり、宗教教育が抑制された。

だが、一九一〇年代になって人間形成に宗教は欠かせないという考え方が広まり、宗教教育への積極的な見方が力を増していった。「日本の宗教教育論」の最初のシリーズではこの過程に焦点をあてた。やがて大正デモクラシーとよばれる思潮とともに、中等教育の大幅な拡充が起こり、大正自由教育運動といった試みも活発になされるようになった。他方、さかんに「改造」が唱えられる状況のもと、社会主義や社会運動の広まりに対応して、社会秩序の平穩維持に貢献すべきものとして宗教に期待がかけられもした。

そうした時代背景の下、公立学校、私立学校、日曜学校、家庭教育等、宗教教育がさまざまに試みられ、それに対応して、宗教教育を論じる著作も多くを数えた。現場での教育実践を視野に入れた論説が充実していく。一九二〇年代は明治維新から現代に至るまでの日本の歴史の中で、もともと濃密に宗教教育が論じられた時期だろう。一九三〇年代になっても宗教教育への関心は持続しているが、次第に弱まっていく。国家神道の力が強まって、宗教はその下に従属する体制が強化されていくからだ。

「日本の宗教教育論2」と題される本シリーズは、この一九二〇年代から三〇年代にかけての宗教教育論を復刻収録している。第二次世界大戦後、再び宗教教育についての議論は起こされたが、さほど活性化しなかった。一九九〇年度以降、また新たに宗教教育の見直しの論が起きている。これは世界的な動向にそったものだ。

フランスのように公教育から宗教教育を追い出した、強く「政教分離」を掲げた国で宗教事実教育を行うべきだという考えが高まっており、日本でも中等教育を中心に公立学校で宗教に関わる教育内容を充実すべきだという見解を述べる人が増えている。

こうした状況を踏まえ、戦前の宗教教育論に眼を向けるとき、そこから学ぶことが少なくない。本シリーズは、日本の宗教教育論、ひいては宗教教育の歴史の見直しに貢献できると信じている。

(東京大学大学院人文社会系研究科教授)

第9巻 宗教々々の実際

第二章 宗教々々の本質

宗教々々に於ける段階

今日迄の多くの宗教運動は、成人を目的として居つたために、宗教は殆んど兒童に理解出来なものの様に考へて來られた。殊に哲學的傾向を持つた宗教では、兒童にさうした困難な形式を教へることは全く不可能の事であつて、兒童としても、さうした宗教から逃げ出したい傾向を持つのは、あり得ることである。そこで、女子と小人度し難しと云つた様な考が多くの宗教家の間に湧いて來るのであつた。

然しかうした考は、全く兒童の宗教心理を解しない人が考へるのであつて、價値の斷層が、人間の成長と共に相重なつてゐることを考へない人達が此の矛盾に逢着するのである。

宗教が生命そのもの、淨化に對する價値運動であるとするれば、何も成人者だけの宗教が宗教の全部であると考へる必要はなく、兒童に向つては兒童の宗教心があらねばならぬことを吾々は考へるべきである。

宗教々々の實際

三五

第14巻 宗教教育の諸相

社會教育と宗教々々の育

現代社會の混亂せる状態を見て、何等か之が指導救済の方策を思はぬ者とははない。産業、政治、教育を始めとして社會改造、生活改善、其他様々と革新の叫びは擧げられて居るが、扱て問題の核心に觸るゝものが幾何であらうか。社會教化乃至救済の事業も亦眞に肯綮に當れるものがない。問題解決の鍵は更に根本的のものでなければならぬ。制度組織の改革は抑も外部的のものである。經濟生活、法治生活、文化生活の指導も必要であるが、それ等一切の外部的革新に基礎を與へ、其中樞となるべき社會意識の教養は現下焦眉の急である。階級間の闘争や權利獲得の諸般の運動も、之を緩和し得るものは國民思想の宗教的教養である。勞資協調の問題も亦之に光明を灑ぐものは暖かい家庭的理想に立てる信念である。曾てローズベルトのいへるが如く、工場にも家庭的要素を編込まねばならぬ。勞働問題婦人問題を解決すべき家族主義が、新しい意義に於て鼓吹さるゝ必要を認むる、而も之は總ての階級を通じて、あらゆる環境の下に在る國民全般に、穩かなる直き靈精を養はしむべき宗教々々の推廣を除いて、他に最善の途を見出し得ないのである。此一面の活路を閉塞して、徒らに世の混沌たる渦巻の中に悶ゆるが故に、總ての方面に於て往詰りを感じるのも亦當然である。

世は様々人は色々、各々向いた方に歩み居るけれども、結局互に相合はねばならぬ、二條の平行線も無限に於ては相合すると高等數學が教へる、神に於ては疎隔の感情も限りなく接近する、互に交錯せる階級も宗教心に由

第8巻

宗教生活叢書 8~10

大東出版社/昭和8年

【内容】新教育思想と宗教思想(吉田熊次)、宗教々々の哲學的基礎(長田新)、大宗教家の教育(椎尾辨匡)、大教育者と宗教(小西重直)、宗教々々の種々相(大村桂蔵)、宗教々々の方法論(入沢宗寿)、社會教化と宗教(加藤咄堂)、宗教々々と宗教々々の義(龜合雄)、宗教々々と国家行政(龍山義亮)

第9巻

宗教生活叢書 11~13

大東出版社/昭和8、9年

【内容】日本宗教々々育史(高橋俊彦)、欧米宗教々々育史(松濤泰蔵)、宗教々々の實際(賀川豊彦)、兒童の宗教意識(関寛之)、幼年期の宗教々々育(倉橋惣三)、少年期並に青年期の宗教々々育(久保良英)

第10巻

宗教生活叢書 14~16

大東出版社/昭和8、9年

【内容】仏教日曜学校(神根愍生)、基督教と日曜学校(海老沢亮)、社會生活と宗教々々育(中島真孝)、女性と宗教及び宗教々々育(市川源三)、ボーイスカウトに於ける宗教々々育(三島通陽)、成人労働者教育と宗教々々育(石田友治)、特殊教育と宗教々々育(小塩高恒)

第11巻

宗教生活叢書 17~19

大東出版社/昭和8年

【内容】中学教育に於ける修身と宗教(渡辺海旭)、修身及び訓練と宗教々々育(小原国芳)、国語教育と宗教々々育(守屋貫秀、歴史と宗教々々育(上里朝秀)、理科と宗教々々育(山下徳治)、音楽舞踊と宗教々々育(牛山充)、童話と宗教々々育(蘆谷重常)、宗教々々と兒童の劇演出(長尾豊)

第12巻

宗教生活叢書 20

大東出版社/昭和9年

【内容】美術と宗教々々育(霜田静志) 仏教大學講座 仏教年鑑社/昭和9年 【内容】宗教教育(竹内道説) 宗教々々育講座 大東出版社/昭和2、4年

【内容】第一巻(第十八巻目次、編集後記等)、教育映画当面の問題(橋高広)、宗教童話について(内山憲堂)、遍在・進化の神性II母性愛と宗教II(麻生正蔵)

第13巻

基督教宗教々々育講座

基督教出版社/昭和7、9年

【内容】宗教芸術にもとづく宗教々々育(賀川豊彦・中村獅雄)、日曜学校の組織管理(岩村清四郎)、日曜学校の歴史(小出正吾)、宗教々々育原理(田泉保興、月報)

第14巻

宗教教育の諸相

海老沢亮著/基督教出版社/昭和11年

【内容】宗教々々と教育機関、宗教々々と教材研究、國民教育と宗教々々育、國際教育と宗教々々育、性教育と宗教々々育、社會教育と宗教々々育、經濟教育と宗教々々育、法政教育と宗教々々育、職業教育と宗教々々育、芸術教育と宗教々々育

創造的宗教教育

マイヤース著、海老沢亮訳/帝國教育会出版部/昭和12年

【内容】宗教教師の事業目標、未完成の事業より宗教に対する挑戦、生命の泉は内部より湧く、創造的宗教教育のプロケラム、教授は進行開展の過程である、自由は自己訓練及責任を含む、創造的宗教と礼拝の妥当性、生徒の学習に關して、学習者としての教師、創造的教育と環境の善用

